匠の技術にふれたくて
知っているようで知らない
ものづくりの現場を訪ねました。

大人の社会見学

我が国の食文化を支える
伝統の醤油造り

昔ながらの天然醸造と長期熟成
有機・地域・伝統をキーワードに
こだわりの醤油を生みだす

日本食に欠かせない調味料・醤油。普段私たちが何気なく口にしている醤油は、どのようにして造られているかご存知だろうか。

醤油はまず、蒸した大豆と炒った小麦に、麹菌を加えて麹を造る。それに食塩水を加えてできたもろみを約1年かけて発酵熟成させ、熟成したもろみから生醤油を抽出、火入れなどで味を整えたものが、ようやく私たちの食卓へと運ばれる。

今回取材した大徳醤油株式会社は明治43年創業。「有機・地域・伝統」の3つをキーワードに、国産原料・国産有機原料にこだわった昔ながらの醤油造りを続けている。

「品質・安全性で一番を目指したい」とは、企画営業部部長の浄慶拓志さん。近年では短時間・低コストで大量生産できることから、脱脂大豆を使用したり、培養酵母菌を温醸（温度を調整して微生物の活動をコントロールすること）して造るものが主流になってきているそうだ。

その中で大徳醤油は一貫して、伝統の「天然醸造」製法を続けている。国産の丸大豆と小麦を使い、先祖から受け継がれた蔵にすみついた自然の酵母たちを、四季の温度変化に委ねてじっくりと熟成する。生産性は低く高コストにはなるが、そうしてできた醤油は、体にもよく、ふくよかな風味が広がるやさしい味わいになるそうだ。

また、「こうのとり醤油」や「有機ノンオイルドレッシング」の開発など、地元の生産農家との連携も積極的に取り組んでいる。昨年度にはそれらの活動が高く評価され「但馬産業大賞」も受賞した。

「今後は地域ブランドを確立させて、但馬をもっと外へ発信していきたい。造ることはできても、根付かせるにはそのよさを知ってもらうことが大事だと思うんです。あくまで国産にこだわり、食の安全性と地域との連携を大切にして、生産者と消費者をつなげたい」と、浄慶さんは語る。

味を〝つけ加える〟のではなく、味を〝ひき立てる〟名脇役こそが本物の醤油だと信じ、伝統の醤油造りはこれからも受け継がれていく。

昔より「一麹、二櫂（かい）、三火入れ」といわれる醤油造り。じっくり熟成させるので、職人による管理が味の大事な決め手となってくる。

（左）国産有機醤油と国産有機野菜のコラボ商品「有機ノンオイルドレッシング」。野菜で野菜を食べる感覚が新しいと、女性を中心に人気。
（右）兵庫県認証食品「こうのとり醤油」。ラベルには生産者の顔と（兵庫県豊岡市産）が記載され、京阪神の百貨店などで販売されている。

「食べ物が工場でしか作れないものであってはならない」との考えから、工場見学や自宅で醤油造りが体験できる「しょうゆづくりキット」の販売により伝統を広める活動にも取り組んでいる。

DATA
■大徳醤油株式会社
養父市十二所930-3　TEL.079-663-4008
◎2012年但馬産業大賞
「新分野にチャレンジする経営革新部門」受賞
http://daitoku-soy.com/

竹中司法書士事務所
●不動産登記　●商業・法人登記　●相続　●裁判事務
司法書士・行政書士
竹中 博司
司法書士 中田 治子
司法書士 松岡 英樹
TEL.0796-23-4111
FAX. 0796-23-4161
MAIL. takenakasihousyosi@sage.ocn.ne.jp
〒 Aity 事務所 市役所 豊岡駅 大開通り
兵庫県豊岡市泉町6-8

大徳のお中元
◆有機
安心・安全な国産有機原料
◆地域
地域農家とのコラボレーション
◆伝統
伝統の製法を継承
大徳醤油　検索

大徳醤油株式会社
TEL 0120-927-914

LET'S GO TO THE TEMPLE 卍

お寺へいこう。

素朴ながらも優れた文化財がたくさんある但馬。近くのお寺にもっと足を運んでみよう！

あらゆる不浄を清める火の神 烏枢沙摩明王を祀る寺

羽ばたく鳥が描かれた芦翔鶴図（ろしょうかくず）。一見すべて鶴に見えるが、コウノトリがまざっている。鶴と見比べると脚が赤っぽく、羽は黒く、目の周りが赤い。

東司に祀られた烏枢沙摩明王。東司を開けた正面に祀られており、一切の穢れや不浄を焼きつくす炎の中に立つ。激しい形相が明王の名にふさわしい貫禄。

幸のとり観音像は、手に「子宝」と「幸せの宝珠」を持ち、いつどこへでも飛んで、幸せを運べるよう衣の裾が翼になっている。

入山者には参拝記念の烏枢沙摩明王護符（べっぴんカード）がもらえる。旅の記念としても人気。入山料200円。

今回案内をしていただいた大田大法住職

今回、編集部が訪ねたお寺は…

05 隆国寺 りゅうこくじ

■兵庫県豊岡市日高町荒川22
TEL.0796-44-0005

三たん（但馬・丹後・丹波）随一と称される三門（山門）は、寛政4年に再建された。楼上には釈迦三尊（釈迦文珠普賢）と十六面羅漢が祀られている。

豊岡市の隆国寺は、古くから「牡丹寺」と親しまれ、関西花の寺や但馬七花寺霊場にもなっている。シンボルとなる牡丹の花は春に境内に咲き誇り、ドウダンやもみじの紅葉など年中花が楽しめる。六月には沙羅や山あじさいが静かに見ごろを迎える。

本尊に聖観世音菩薩を祀る隆国寺の魅力は、花だけではない。県の重要文化財に指定される本堂のふすま絵や仏像など見所が満載。

中でも、本堂横の東司（御手洗）に祀られた「烏枢沙摩明王」はかの有名なヒット曲の影響で注目を浴び、最近では、「トイレの神様」と愛称を込めて呼ばれている。烏枢沙摩明王は、古来より東司の神様として名高く、不浄を消し去る功徳があると信仰され、下半身の病気の病魔降伏のご利益があるとされている。

心静かに祈れば、不浄を取り払い、心も身体も清浄に美しくなれる。隆国寺に訪れた際には、ぜひ東司へ立ち寄ってみてほしい。

また、豊岡市のシンボル「コウノトリ」に由来する宝物も興味深い。美しい色彩の羽衣を纏った「幸のとり観音像」がそのひとつにあげられる。

「こうのとりに姿を変え、自ら絶滅の危機に陥ることで、人々に自然の大切さを知らせ、正しい生き方へと導いてくれた観音様にちがいない」と住職は考え、そのお姿をお迎えした。

作品に込められた秘話や伝説。そこから見えてくる新たな一面は、一度見た事がある人もきっと楽しめるはずだ。

ONE POINT ADVICE

ふすま絵のおはなし

★本堂のふすま絵を楽しもう！

本堂の東序室中に描かれた「虎渓三笑図」。宗教のことなる三人でも、求めるところは自他の幸せ。歩む道はちがっても、思想・教義を超えて仲良く語り合い、笑いあっている姿は、真の平和のあり方を考えさせてくれる。

※見学は自由ですが、くれぐれもマナーを守って鑑賞しましょう。

永代供養墓やすらぎ霊廟

やすらぎ霊廟は四季の花々が荘厳する花の寺の寂光苑墓地にあり、お釈迦さまが寂かに端坐されています。宗教・宗派・国籍は問いませんが、祭祀については当山の法によります。永代供養恩金は1霊40万円、納骨恩金は、合祀・納骨室安置・個別墓など納骨方法により異なります。お問い合わせは隆国寺まで。

但馬七花寺（ななかじ）霊場を巡ってご利益ゲット！

曹洞宗 隆国寺

兵庫県豊岡市日高町荒川22 http://ryukoku-ji.jp
TEL.0796-44-0005 FAX.0796-44-0307